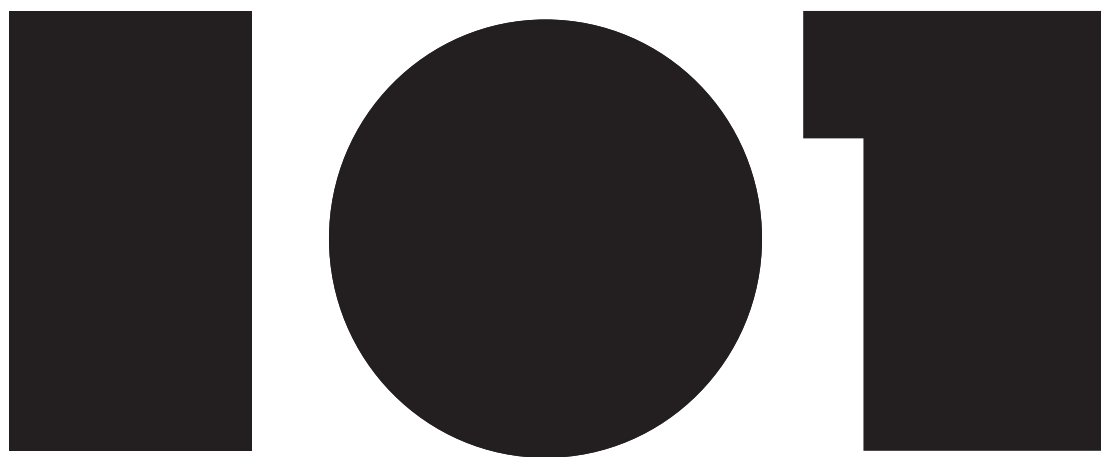


Fujifilm Photo Collection :
My Single Photo
A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

フジフィルム・フォトコレクション

私の の 1 枚

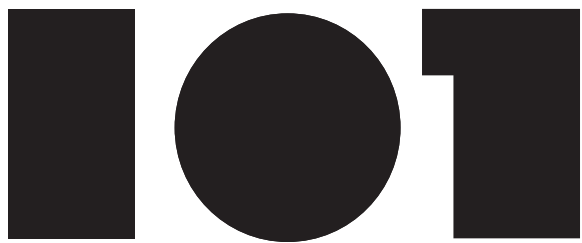


—日本の写真史を飾った巨匠101人—

平成27年

3月5日 木 — **5月17日** 日

細見美術館



Fujifilm Photo Collection :

My Single Photo

A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

フジフィルム・フォトコレクション

私の1枚

—日本の写真史を飾った巨匠101人—

平成27年 3月5日(木)～5月17日(日)

2014年1月、富士フイルム株式会社は創立80周年を記念して「フジフィルム・フォトコレクション」を立ち上げました。

このコレクションは写真術が渡来した幕末・明治から銀塩写真が最盛期を迎えた20世紀の間に、日本の写真史を飾った写真家101人それぞれが選んだ「この1枚」を高画質の銀塩プリントで新たに制作したものです。

多くの写真家によって築き上げられた日本の写真と写真界の発展の軌跡をこの機会に是非、ご堪能ください。

富山治夫



撮影 富山治夫
「過密」(『現代語感』より) 一九六四年

富山治夫は1935年、東京都に生まれる。朝日新聞社出版写真部を経て、1965年、「現代語感」により日本写真批評家協会新人賞受賞。1966年、フリーランスに。2003年、紫綬褒章受章。

本作は『朝日ジャーナル』誌で連載が開始された第1回目の作品。撮影は計画準備に時間を要するが、シャッターチャンスは一瞬だという。1964年夏、錦糸町のバス停前、道路の中央にたって構えると後ろから来た車がクラクションを鳴らす。その音に、一斉に振り返った瞬間、シャッターを切った1枚。

内田九一



撮影 内田九一
「隅田川の舟遊び」 一八七二年

1844年、長崎・銅座町に生まれる。前田玄造から写真術の手ほどきを受ける。1865年大坂の順慶町(後に天満天神東側)に移り、写真館を開業。1866年に江戸に移り、横浜・馬車道に、翌年には東京・浅草瓦町に写真館・九一堂万寿を開業。

本作に映された舟は実際には川に浮かんでおらず、浅瀬に置かれている。露光が長時間になる故に、川の流れが止まったように見えるのは、当時の写真の特徴。内田はそうした特性を逆手に生かし、水面の映り込みも計算にいられて撮影している。

奈良原一高



撮影 奈良原一高
アメリカ・インディアン村の二つのゴミ缶（消滅した時間より）
一九七二年

1931年、福岡県に生まれる。1958年、古典「王国」(富士フォトサロン)により日本写真批評家協会新人賞受賞。1967年、『ヨーロッパ・静止した時間』(鹿島出版会)により毎日芸術賞ほか受賞。1996年、紫綬褒章受章。

本作は1970年に渡米、4年間滞在した北アメリカを拠点に制作されたシリーズ〈消滅した時間〉からの1点。柱に取り付けられた二つのゴミ缶が宙に浮いているかのように見え、奈良原の鮮烈な時空間意識が強く感じられる。



撮影 前田真三
「麦秋鮮烈」一九七七年

前田真三

1922年、東京府南多摩郡恩方村(現・東京都八王子市下恩方町)に生まれる。1967年、株式会社丹溪を設立。写真活動を始める。1987年、北海道美瑛町に写真ギャラリー・拓真館を開設。1996年、勲四等瑞宝章受章。1998年没、享年76歳。1999年、風景写真の新人賞である前田真三賞が設立される。

代表作「麦秋鮮烈」は、当初、「麦秋暮色」というタイトルであったが後に改題。その理由を「年月を経てもその鮮烈さを失わない」と語っていた。濃い藍色は青空ではなく、雲の底部が青黒く沈み込んだ現象。密度の濃い諧調表現と鮮やかな発色性が特徴で、「ぜひこのプリントで作品を残したい」という作者の念^{おも}いで1992年に制作された貴重な一枚である。

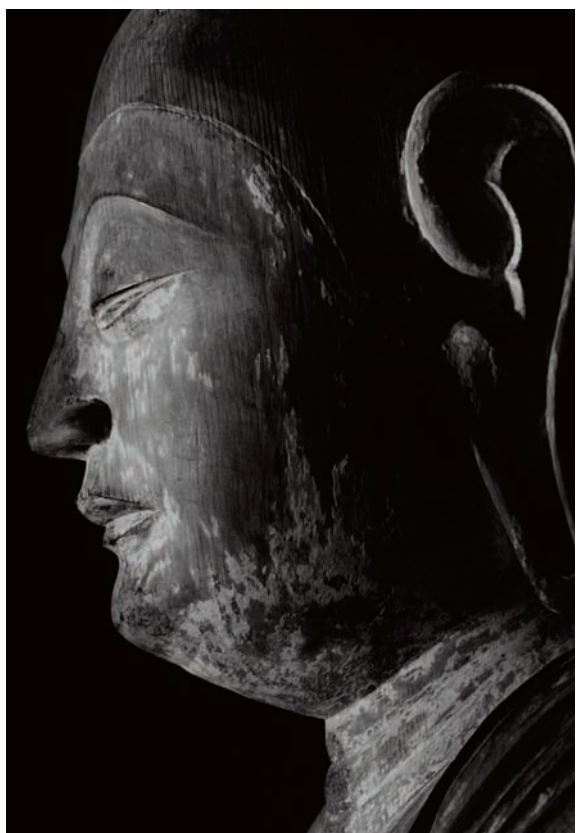
木村伊兵衛

1901年、東京市下谷金杉町（現・東京都台東区）に生まれる。1924年、東京日暮里に写真館を開業。1930年、花王石鹼長瀬商会広告部に嘱託入社、ライカA型カメラを購入し、1932年野島康三らと『光画』を発刊。戦時中は、東方社にて対外宣伝グラフ誌『FRONT』の制作に従事。土門拳と並んで戦後の日本写真界を牽引。1950年、日本写真家協会初代会長に就任。1974年没、享年72歳。1975年、その業績を称え新人写真家の発掘を目的とした木村伊兵衛写真賞設立。

本作品のモデルは、当時19歳の地元の美人コンテストの優勝者。「農作業に従事するおばこ」として、木村の演出が施されている。「秋田おばこ」は、報道写真の傑作であると同時に、女性写真の名手として名を馳せた木村の技が見事に結実した1枚。



撮影 木村伊兵衛
「秋田おばこ」秋田・大曲 一九五三年



撮影 土門拳
「弥勒堂釈迦如来坐像左半面相」一九六七年

1909年、山形県酒田市生まれ。1933年、東京にある宮内写真場の内弟子となり蔵書を読破するなどして写真を習得。1935年日本工房入社、対外宣伝紙『NIPPON』を中心に報道写真の仕事を始める。戦後はフリーランスとなり、写真におけるリアリズムを提唱、日本の写真界に大きな影響を与えた。1980年、勲四等旭日小綬章受章。1983年、土門拳記念館開館。1990年没、享年80歳。

1939年の暮れ、初めて室生寺を訪れた。「たった一回の室生寺行が、ぼくに一大決心をなさしめた」と語る通り、後のライフワーク「古寺巡礼」の出発点ともなったこの訪問で、その後40年にわたって数十回の撮影を重ねた。特に大きな衝撃を受けたのがこの釈迦如来坐像との出会いだっただ。対象を徹底的に観察し、記録を超えた本質を写し出そうとした土門の執念がとらえた一枚。

土門拳

土田ヒロミ



撮影 土田ヒロミ
「愛知―色黒沢」(『俗神』より) 一九六九年

1939年、福井県南条郡堺村(現・南越前町)に生まれる。本名・宏美。1963年、福井大学工学部卒業後、ポーラ化粧品に入社。東京勤務を機に、東京総合写真専門学校研究科で学ぶ。1971年、フリーの写真家に転身後、「自閉空間」で第8回太陽賞受賞。1984年、〈ヒロシマ〉シリーズで、日本写真協会年度賞、2008年、「土田ヒロミのニッポン」で第27回土門拳賞受賞。

本作は、日本人の原像を追い求めて、全国各地に旅をして『カメラ毎日』(1972年)に連載された、〈絆〉シリーズを中心にまとめた写真集『俗神』(オットーズ・ブック社、1976年)におさめられている。こうした日本人の土俗的な感性を赤裸々に抉り出し、高い評価を受けた。

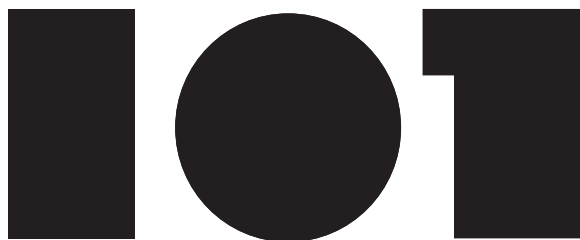


撮影 森山大道
「三沢の犬」一九七二年

森山大道

1938年、大阪府池田町(現・池田市)生まれ。商業デザイナーとして活動後、1964年よりフリーとなって、グラフ誌や写真雑誌で作品を発表。粒子が荒れた「アレ・ブレ」と称される硬質なモノクロ写真で注目を集める。1990年代より世界的な再評価を受けている。1967年、日本写真批評家協会新人賞、2003年、毎日芸術賞、2004年、ドイツ写真協会賞ほか受賞。

森山自身のイメージが投影された1枚といえば、1971年の『アサヒカメラ』での連載「何かへの旅・3」で初めて発表された、この「三沢の犬」だろう。この年初めて訪れた三沢で、森山は多くの犬を見かけた。それも飼い犬ではなく「ウロン気な野良犬どもがぼんやりさまよっている」様子である。そんな犬の姿は、カメラを向ける対象を求め、あてもなく街をさまよう写真家の姿とかさなるものがあった。森山はこの連載にあたり「何かを僕がレンズで写すのではなく、何かが僕のレンズに飛び込んでくるまで、シャッターを切り続けることしかないようだ」と決意を述べている。



Fujifilm Photo Collection :
My Single Photo
A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

[基本情報・お問合せ]

フジフィルム・フォトコレクション

私の1枚—日本の写真史を飾った巨匠101人—

平成27年 3月5日(木)～5月17日(日)

主催	細見美術館 京都新聞
特別協力	富士フイルム株式会社
協力	株式会社コンタクト フォトクラシック
開館時間	午前10時～午後6時(入館は5時30分前まで)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)
入館料	一般1,100円(1,000円) 学生800円(700円) ※()内は20名以上の団体料金
会場	細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 TEL075-752-5555 http://www.emuseum.or.jp
出品作品数	101点、展示替なし

お問合せ先

広報担当 三宅 由紀
TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955
E-MAIL/ press@emuseum.or.jp

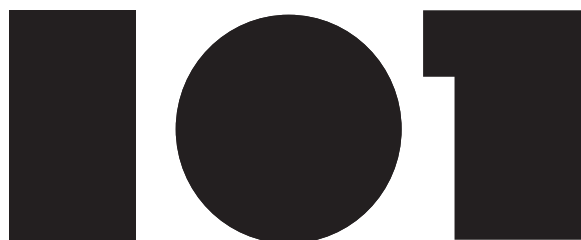
会期中のイベント

ギャラリートーク(予定)

3月5日(木)14:00～

3月28日(土)11:00～、14:30～

講師: 山崎 信氏(フォトクラシック代表)



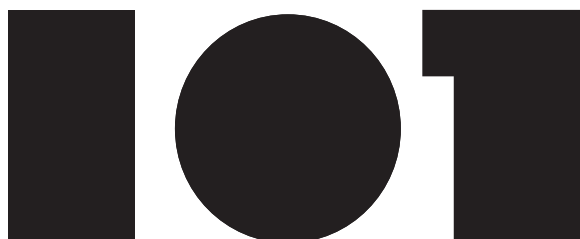
Fujifilm Photo Collection :

My Single Photo

A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

[出品目録]

作家名	作品タイトル、シリーズ名	撮影年	プリント技法	イメージサイズ (H×W/mm)
フェリーチェ・ベアト	長崎、中島川	1865年頃	鶏卵紙	257×300
上野彦馬	長崎、中島川	1872年頃	鶏卵紙	200×267
下岡蓮杖	<The Far East>より 「果物売り」	1860年代半ば	鶏卵紙	130×90
〃	〃 「笹売り」	〃	鶏卵紙	130×90
〃	〃 「ブリキ職人」	〃	鶏卵紙	130×90
〃	〃 「醤油売り」	〃	鶏卵紙	130×90
内田九一	隅田川の舟遊び	1872年	ゼラチン・シルバー・プリント（複製）	320×409
日下部金兵衛	三保の松原の人力車	1880年代	鶏卵紙に手彩色	203×262
小川一真	百美人	1891年	鶏卵紙に手彩色	242×186
鹿島清兵衛	ポン太	1895年頃	鶏卵紙に手彩色	280×214
福原信三	釣り <巴里とセイズ>より	1913年	発色現像方式印画（複製）	295×217
塩谷定好	破船	1929年	ゼラチン・シルバー・プリント	222×453
桑原甲子雄	麹町区馬場先門（現・千代田区）	1936年2月27日	ゼラチン・シルバー・プリント	237×354
安井仲治	海濱	1936年	ゼラチン・シルバー・プリント	329×235
福原路草	不詳 新潟・関温泉にて	1938年	発色現像方式印画（複製）	295×237
田淵行男	初冬の浅間 黒斑山の中腹より	1940年	ゼラチン・シルバー・プリント	287×400
濱谷 浩	歌ってゆく鳥追い 新潟 <雪国>より	1940年	ゼラチン・シルバー・プリント	245×366
岡田紅陽	東海の松 毘沙門 静岡県	1944年頃	ゼラチン・シルバー・プリント	278×448
影山光洋	手作りの小麦の収穫祝いの食卓	1946年6月25日	ゼラチン・シルバー・プリント	223×329
林 忠彦	太宰治	1946年	ゼラチン・シルバー・プリント	407×271
植田正治	バビとママとコードモたち	1949年	ゼラチン・シルバー・プリント	199×275
木村伊兵衛	秋田おぼこ 秋田・大曲	1953年	ゼラチン・シルバー・プリント	407×273
渡辺義雄	内宮正殿北西側全景 <伊勢神宮>より	1953年	ゼラチン・シルバー・プリント	332×394
岩宮武二	マヌカン	1954年	発色現像方式印画	350×345
大辻清司	陳列窓	1955年	ゼラチン・シルバー・プリント	246×246

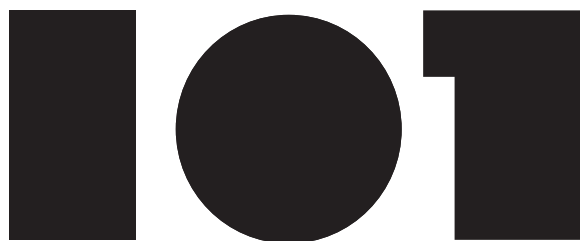


Fujifilm Photo Collection :

My Single Photo

A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

宮本隆司	解体中の有楽座、日比谷映画劇場から三信ビルを見る ＜建築の黙示録＞より	1984年	ゼラチン・シルバー・プリント	530×361
伊奈英次	在日沖縄米軍楚辺通信所 ＜ZONE＞より	1986年	発色現像方式印画	430×530
上田義彦	Robert Mapplethorpe	1986年	ゼラチン・シルバー・プリント	242×200
三好耕三	本荘 ＜Picture Show 傍観＞より	1986年	ゼラチン・シルバー・プリント	402×510
竹内敏信	ファイヤーカーテン 三原山	1987年	発色現像方式印画	272×407
広川泰士	sonomama sonomama #26	1985年 (シリーズ発表年:1987年)	ゼラチン・シルバー・プリント	335×335
星野道夫	夕暮れの河を渡るカリブー	1988年頃	発色現像方式印画	281×422
今 道子	タコ+メロン	1989年	ゼラチン・シルバー・プリント	382×481
柴田敏雄	新潟県北魚沼郡湯之谷村 ＜日本典型＞より	1989年	ゼラチン・シルバー・プリント	447×559
田中光常	オウサマベンギン サウスジョージア島	1992年	発色現像方式印画	271×407
斎藤亮一	スズダリ ロシア共和国 ＜NOSTALGIA＞より	1993年	ゼラチン・シルバー・プリント	384×474
潮田登久子	東京 世田谷 ＜冷蔵庫／Ice Box＞より	1994年	ゼラチン・シルバー・プリント	300×301
〃	〃	〃	ゼラチン・シルバー・プリント	300×301
瀬戸正人	渋谷 ＜Silent Mode＞より	1995年	ゼラチン・シルバー・プリント	455×310
野町和嘉	ライラトル・カドルの礼拝 メッカ	1995年	発色現像方式印画	270×405
秋山庄太郎	＜薔薇＞より	1996年頃	発色現像方式印画	274×408
佐藤時啓	光ー呼吸 #275 Koto-ku Aomi	1996年	ゼラチン・シルバー・プリント	428×537
白岡 順	フランス、ニーム 1999年7月13日	1999年	ゼラチン・シルバー・プリント	165×247
鬼海弘雄	歳の祝いの日 ＜PERSONA＞より	2001年	ゼラチン・シルバー・プリント	350×349

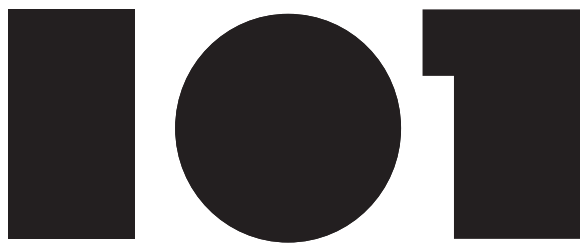


Fujifilm Photo Collection :

My Single Photo

A collection of single photographs from
dozens of Japanese photographic history

有田泰而	First Born	1973年	ゼラチン・シルバー・プリント	192×192
木之下晃	Alfred Brendel <世界の音楽家>より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	326×408
原 直久	レ・アール市場跡 <Paris>より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	427×544
江成常夫	スラムのアパートの三人家族 7 ストリート、東 111 番地 New York <ニューヨークの百家族>より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	310×389
倉田精二	池袋・光町大橋近く東京 池袋 <FLASH UP >より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	333×412
杉山 守	ベンジ・ボトル <STILL LIFE >より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	329×333
秋山亮二	<津軽 聊爾先生行状記>より	1976年	ゼラチン・シルバー・プリント	355×357
北井一夫	長崎・平戸 <村へ>より	1972年 (シリーズ発表年:1976年)	ゼラチン・シルバー・プリント	378×255
操上和美	海を見る <陽と骨>より	1976年	ゼラチン・シルバー・プリント	476×477
須田一政	山形 銀山温泉 <風姿花伝>より	1976年	ゼラチン・シルバー・プリント	368×371
南川三治郎	ジョアン・ミロ <アトリエの巨匠たち>より	1976年	発色現像方式印画	327×407
石内 都	絶唱・横須賀ストーリー	1977年	ゼラチン・シルバー・プリント	374×557
牛腸茂雄	<SELF AND OTHERS >より	1977年	ゼラチン・シルバー・プリント	154×230
深瀬昌久	鴉 金沢 <鴉>より	1977年	ゼラチン・シルバー・プリント	310×455
前田真三	麦秋烈烈	1977年	ダイ・トランスファー・プリント	375×569
中村征夫	海軍コマンドに悪かれた男たち	1978年	発色現像方式印画	282×422
山崎 博	<HELIOGRAPHY >より	1978年	ゼラチン・シルバー・プリント	210×315
北島敬三	新宿二丁目のゲイボーイ <東京 1979>より	1979年	ゼラチン・シルバー・プリント	306×217
水越 武	天に登る光跡 カラコルム・パキスタン	1979年	ゼラチン・シルバー・プリント	274×407
入江泰吉	斑鳩の里落陽 法隆寺塔	1980年頃	発色現像方式印画	329×423
大西みつぐ	根津 <Wonderland 1980 ~1989>より	1980年	ゼラチン・シルバー・プリント	238×236
島尾伸三	<生活>より	1980年	ゼラチン・シルバー・プリント	300×410
菅後 均	「暗転」シリーズより	1980年	ゼラチン・シルバー・プリント	217×324
ハービー・山口	GALAXY, London	1981年	ゼラチン・シルバー・プリント	308×455
伊藤義彦	Imagery 72-82011, 1982	1982年	ゼラチン・シルバー・プリント	210×228
山沢栄子	What I'm doing #24 <What I'm doing>より	1982年	発色現像方式印画	406×406
清家富夫	<Portrait of ZD>より	1983年	ゼラチン・シルバー・プリント	299×201
長倉洋海	一人、山上で本を読む戦士マサードアフガニスタン	1983年	発色現像方式印画	270×408
築地 仁	写真像 #55 <写真像>より	1984年	ゼラチン・シルバー・プリント	355×355
水谷章人	<白銀の閃光>より	1984年	ゼラチン・シルバー・プリント	535×362



Fujifilm Photo Collection :

My Single Photo

A collection of single photographs from
doyens of Japanese photographic history

田沼武能	真知子巻きでお使い 東京・佃島	1955年	ゼラチン・シルバー・プリント	406×272
鋤田正義	母	1958年	ゼラチン・シルバー・プリント	492×397
長野重一	5時のサラリーマン 東京・丸の内 <ドリームエイジ>より	1959年	ゼラチン・シルバー・プリント	228×320
石元泰博	シカゴ 子供 <シカゴ、シカゴ>より	1958-61年	ゼラチン・シルバー・プリント	180×255
川田喜久治	日の丸 <地図>より	1960年	ゼラチン・シルバー・プリント	219×292
杵島 隆	恋人たち	1961年頃	発色現像方式印画	406×321
大竹省二	ヘルベルト・フォン・カラヤン	1961年	ゼラチン・シルバー・プリント	407×292
細江英公	薔薇刑 #32	1961年	ゼラチン・シルバー・プリント	204×297
緑川洋一	瀬戸内海・島と灯台	1962年頃	発色現像方式印画	280×408
芳賀日出男	正月と盆 横手万歳	1962年	ゼラチン・シルバー・プリント	274×408
富山治夫	過密 <現代語感>より	1964年	ゼラチン・シルバー・プリント	291×407
白旗史朗	冬の晨 箱根姥子	1965年	ゼラチン・シルバー・プリント	317×407
高梨 豊	<東京人>より	1965年	ゼラチン・シルバー・プリント	203×307
立木義浩	<舌出し天使>より	1965年	ゼラチン・シルバー・プリント	408×276
桑原史成	“生ける人形”とも言われた少女 <水俣>より	1966年	ゼラチン・シルバー・プリント	508×346
坂田栄一郎	<Just Wait>より	1966年	ゼラチン・シルバー・プリント	330×330
篠山紀信	<誕生>より	1967年	ゼラチン・シルバー・プリント	428×440
土門 拳	弥勒堂釈迦如来坐像左半面相 <室生寺>より	1967年	ゼラチン・シルバー・プリント	406×323
広田尚敬	C57 動輪 秋田・土崎	1967年	ゼラチン・シルバー・プリント	400×270
小川隆之	<New York Is >より	1968年	ゼラチン・シルバー・プリント	291×429
久保田博二	沖縄	1969年	ゼラチン・シルバー・プリント	259×399
土田ヒロミ	愛知 一色黒沢 <俗神>より	1969年	ゼラチン・シルバー・プリント	274×408
荒木経惟	<センチメンタルな旅>より	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	272×405
沢渡 朔	<NADIA >より	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	305×455
十文字美信	Untitled <首なし>より	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	345×343
鈴木 清	女、川崎 <流れの歌>より	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	275×407
東松照明	波照間島	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	304×426
森山大道	三沢の犬	1971年	ゼラチン・シルバー・プリント	311×401
田村彰英	YOKOHAMA <午後>より	1972年	ゼラチン・シルバー・プリント	345×348
奈良原一高	アメリカ・インディアン村の二つのゴミ缶 <消滅した時間>より	1972年	ゼラチン・シルバー・プリント	268×399
森永 純	福岡県能古島 <波一海>より	1972年	ゼラチン・シルバー・プリント	303×452